

認知症初期集中支援事業（こうべオレンジチーム）令和2年度の活動から
（神戸在宅医療・介護推進財団）

1 相談件数・内容について

- ・相談対応件数 170 件（※令和元年度からの継続支援ケースは別途 88 件あり）
- ・あんしんすこやかセンターからの相談件数が 144 件（85%）を占める。
- ・170 件中 87 件は困難ケース（51%）
（介入の拒否・精神疾患関連・経済的問題・ゴミ屋敷・家族問題・DV・虐待・8050 問題等が複雑に絡んだケース）
- ・認知症か精神疾患高齢者なのかわからないケースや複雑なケースが増え、対応に困った地域やあんしんすこやかセンターから医療や介護につなげてほしいという依頼や、チームと一緒に考えてほしいと相談が上がってくるがチームでも対応に苦慮している。
- ・金銭管理のトラブルから、金銭管理への支援を希望されるケースが増えている。
（新型コロナ特別定額給付金に関するトラブル、金融機関からの相談）
- ・医療や介護サービスにつながったケース 72.35%（認知症施策推進大綱 65%）

2 あんしんすこやかセンターとの連携

令和元年度に行ったアンケートのまとめや事例集を 76 か所のあんしんすこやかセンターに配布して制度の周知に努めた。

アンケートには相談のタイミングがわからないとか、どんなケースをチームにつないだらよいかわからないという意見もあったので、それらの点をわかりやすく説明することで利用促進を図ることができた。

3 コロナ禍での活動

2 度の緊急事態宣言下においても活動は感染予防を心掛け継続して行った。地域の交流や家族との交流が減る中で、一時的に地域からの相談が減ることはあったが、チームの役割である集中的な訪問や、受療支援を含めた関係機関へのつなぎなど通常通りの活動を行った。オンラインでのチーム員会議も開催した。

	令和 1 年	令和 2 年
対応件数	165	170
自宅訪問件数	879	1020

4 神戸モデルとの連携

認知症神戸モデルの普及とともに、診断助成制度の第 1 段階（認知機能検診）第 2 段階（認知機能精密検査）につなげるため必要に応じて受診への促しや受診同行等の支援を行い、医療機関との連携を強化した。また、直接鑑別診断に繋げていくほうが良いと判断した場合、チームから第 2 段階の認知症疾患医療センターに直接つなぐ仕組みも効果的に活用できた。

5 事例集の作成

- ・支援の活動の効果検証の一環として平成 30 年度の事例から、事例集を作成。
- ・事例集を作成することで、自らの活動を振り返り支援の質の向上を図った。
- ・活動実践例を広報活動に活用した。